

# 南三陸町生ごみ再資源化事業における ナッジを活用したLINE公式アカウントの効果検証

日室 聡仁\*1, 後藤 晶\*2, 小橋 柚香\*3, 安藤 香織\*3 (\*1 NECソリューションイノベータ株式会社, \*2 明治大学, \*3 奈良女子大学)

## 概要

### 課題

- 南三陸町では家庭から排出される生ごみを回収して再資源化しているが、一部の住民は生ごみを可燃ごみとして処理している。可燃ごみとして処理されている生ごみを減らし、再資源化される生ごみを増やすことが課題である。

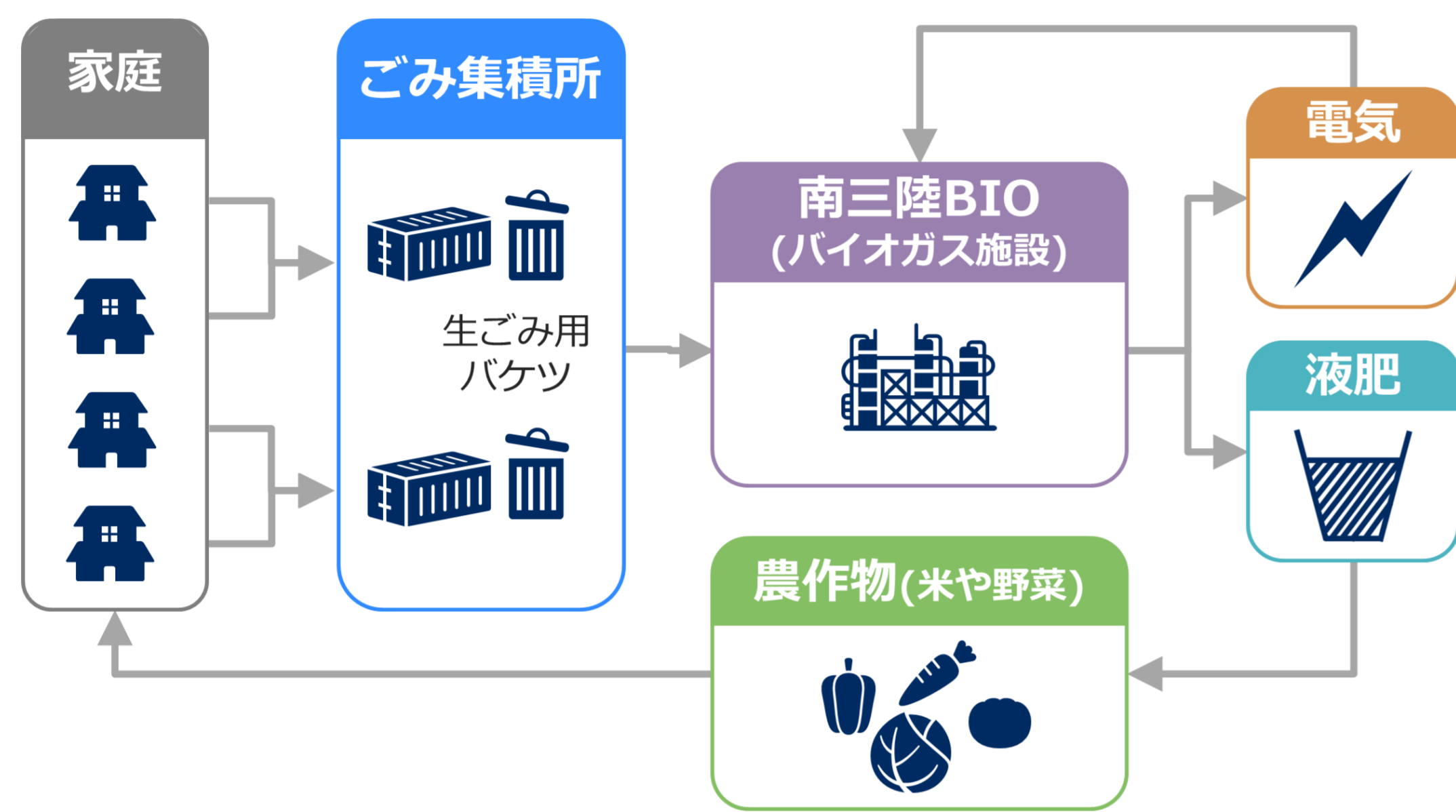
### 介入

- 生ごみ再資源化事業の月の回収目標値や進捗を通知するLINE公式アカウントを南三陸町の住民に提供
- ナッジ試作としてLINE公式アカウントに町内外から「頑張る」や「いいね」のような社会的承認を送りあう機能を組み込んだ

### 結果

- 町内利用者55名/町外利用者49名がLINE公式アカウントを利用。利用者を十分に集めることができなかったため介入の主効果を確認することはできなかった。分別意識や南三陸への愛着が高まる可能性があることが確認された。

## 背景

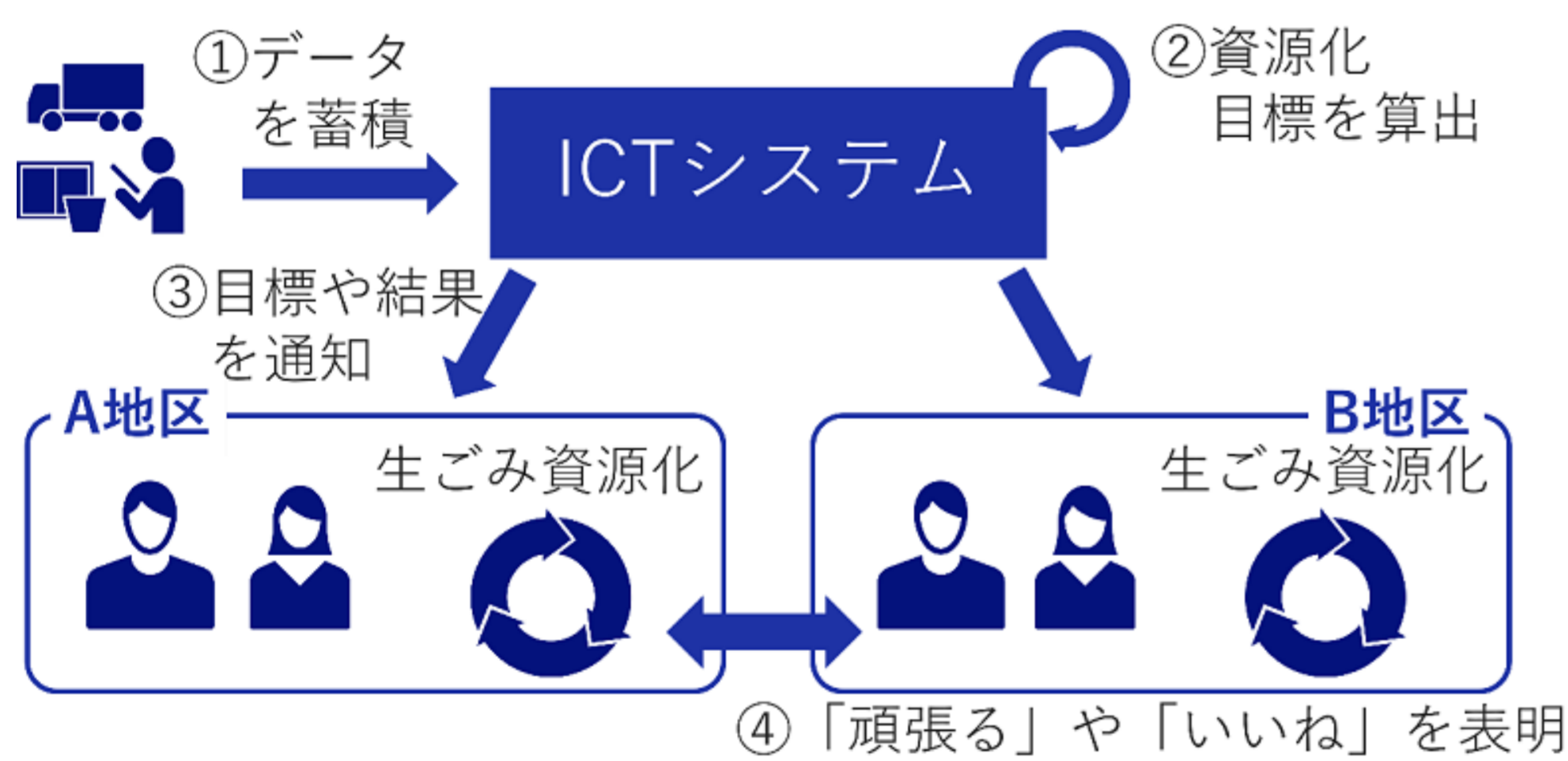


南三陸町では生ごみ資源循環モデルを2015年から運用  
⇒ 再資源化される生ごみの回収量を増やすことが課題

## 取り組み

### 生ごみ再資源化事業の状況を伝え行動を変容する仕組みを提供

集められた生ごみ回収量の蓄積データをもとに地区ごとに達成すべき資源化目標を算出し、LINE公式アカウント「南三陸生ごみ再資源化ミッション」で目標や進捗や結果を住民に配信した。



### 行動変容を促す介入①：目標値の設定

目標設定により参加者の行動が促されることが行動経済学では示唆されている。そのノウハウを本実証でも活用した。

### 行動変容を促す介入②：「頑張る」気持ちと「いいね」の表明

LINE上で、住民は生ごみの再資源化に対する「頑張る」気持ちを表明することができる。ナッジでは、行動しようという意志を事前に周囲に表明することが、その行動を促進すると示唆されており、本実証でもその効果を期待する。「頑張る」気持ちの表明件数を集計し、住民同士で共有することにより、地域の連帯感の醸成を後押しする。また、住民は全地区の回収結果に対して「いいね」を表明でき、その集計結果は後日配信される。行動経済学では、「いいね」のような社会的承認を受け取ることが協力行動の促進につながることを示唆されており、その効果を狙う。



目標配信のイメージ

進捗配信のイメージ

結果配信のイメージ

## システム利用状況

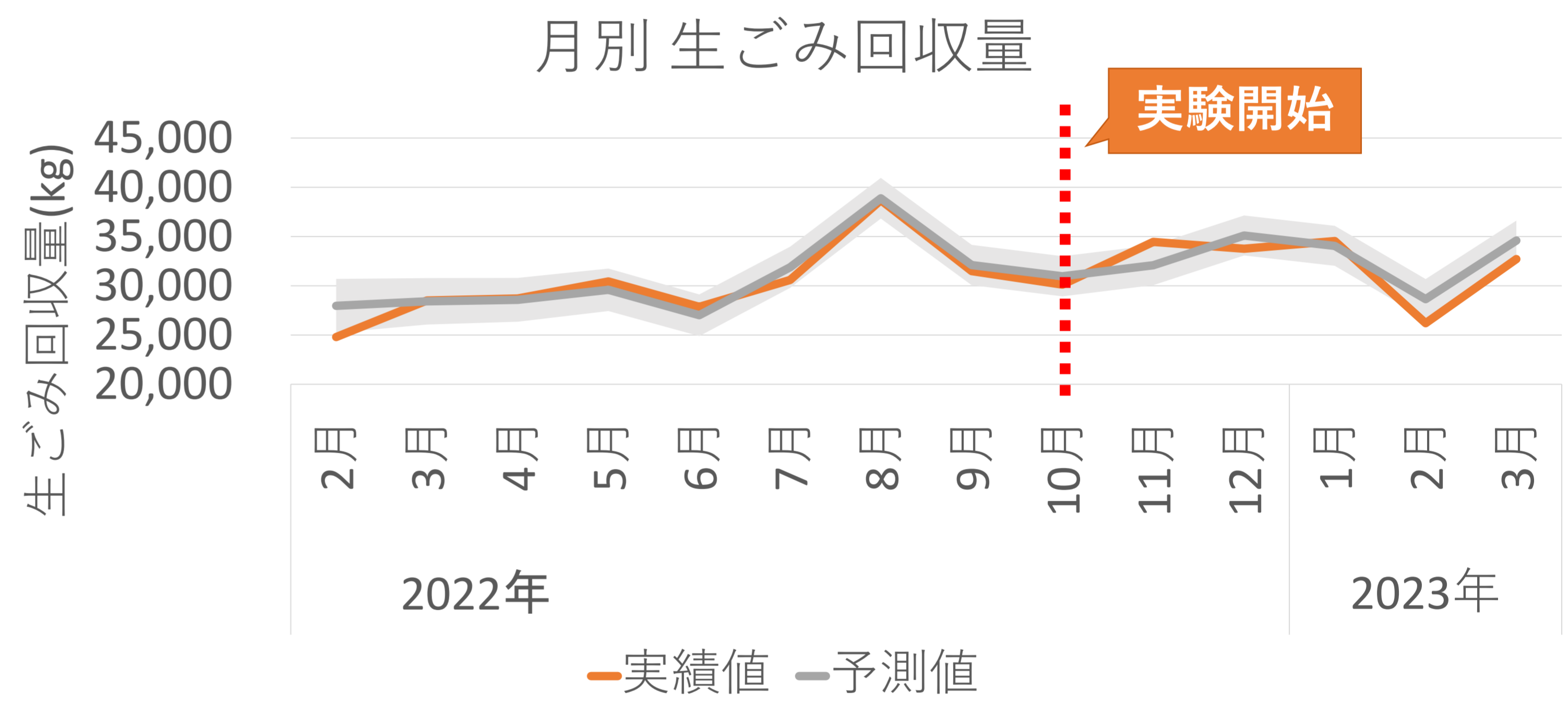
### システム利用者数

2022年10月にシステムリリース。最終的に町内55名、町外49名にシステムを利用いただいた。想定では町内利用者を400人を集める予定だったが利用者を増やすことができなかった。

## 介入効果

### 生ごみ回収量の推移

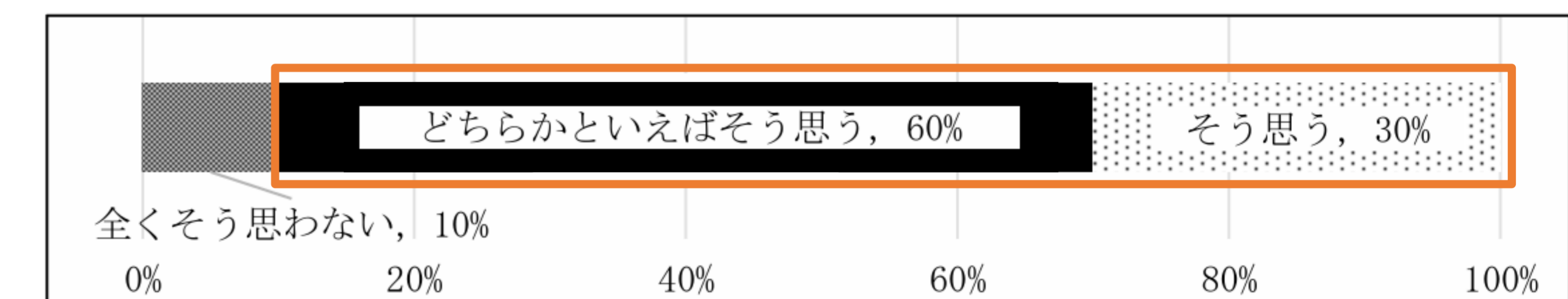
過去のデータからシステムを提供しなかった場合の生ごみ回収量を推計し実績と比較。利用者を十分に増やすことができなかったために介入効果を確認することはできなかった。



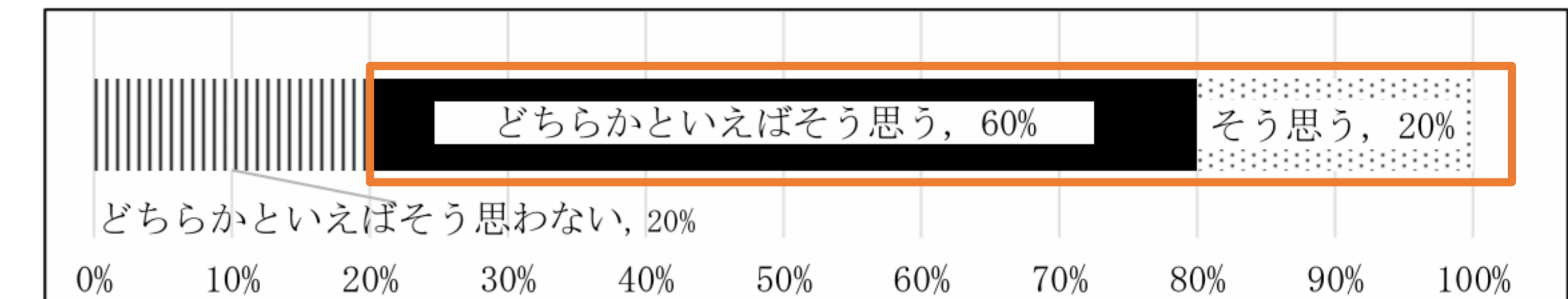
### 事後アンケートの結果

LINE公式アカウントによってごみ分別意識や南三陸への愛着が高まる可能性があることが確認された(有効回答数16件)。

町内利用者の「このLINEアカウントを友だち登録してから、以前よりも生ごみの分別・回収を積極的にしたいと思った。」の回答ごとの割合



町内利用者の「このLINEアカウントを友だち登録してから、南三陸町への愛着がわいた。」の回答ごとの割合



## 利用者の声

- 集めたい生ゴミの量に対しての達成状況が可視化できる点は良かったと思った。(30代女性)
- 他の地区との競争性が生まれ、自分ごととして日頃の生活を見直すきっかけになったと感じる。(20代男性)
- 双方向や問い合わせなどができたら尚よいかと。(40代男性)
- 分別に関する豆知識のような物が定期的に配信されたりすると面白そうだと思う。(30代女性)